

地域社会

19年ぶり 長崎平和祈念像 塗り直し

3月下旬完了

長崎市は28日、原爆の爆心地に近い同市松山町の平和公園で、19年ぶりとなる平和祈念像の塗り直しに着手した。銅器メーカー竹中銅器(高岡市)の職人らが像の周りに足場を組んで2月中旬までに全体をシートで覆ってから、本格的に作業。青みがかったきれいな姿で市民や観光客の前にお目見えするのは、3月下旬の見通しだ。

竹中銅器の職人ら着手



確保するため、高さ約1.5mの柵を設置。像を囲んでいる御影石でできた池の水も抜き、デッキブラシを使って清掃した。池は

ゴム製シートで覆って保護する予定。
平和祈念像は青銅製で、高さは本体が9・7m、台座が3・9m。天に向けた右手が「原爆の脅威」を、水平に伸びた左手が「平和」を表し、まぶたを閉じて犠牲者を悼んでいる。彫刻家の故北村西望氏が手掛け、終戦から10年後の1955年8月に完成した。前回の塗り直しは99年10月から2000年3月にかけて行われた。

市は毎年8月9日の「長崎原爆の日」に、祈念像前で平和祈念式典を行っている。

塗り直しのための作業が始まった長崎市の平和祈念像
—28日午前